

もっと知りたい、健康のこと。

静岡赤十字病院広報誌

2025年・新緑号

vol.374

|季刊|発行|

日赤News

[特集]

区域切除やロボット支援下手術、

より低侵襲化が進む 肺がんの外科治療

information

当院に新たに着任した
医師をご紹介します

しずおかクロス NAVI

看護部
Instagramにて
情報発信中!

ほっとニュース

整形外科に新外来開設と
「CTナビゲーション装置」の導入について

MRI増設・更新に伴う工事のお知らせ

写真は当院で働くスタッフが毎月出ます。

今号のテーマ: 肺がん治療

区域切除やロボット支援下手術、 より低侵襲化が進む 肺がんの外科治療

早期肺がんに対して根治を目指して行われる手術治療は、近年大きく変化。新たに標準治療となった区域切除、話題の手術支援ロボットなど、患者さんのQOLに配慮したさまざまな選択肢が増えています。

教えて
ドクター
Q & A

呼吸器外科

早川 貴光 副部長

県内全域にて広く外科医療に携わったのち、2024年4月より当院呼吸器外科副部長に着任。すらっと長身でスタイル抜群、さぞ食事に気を使っているのではと思いきや、実は大の甘党だそう。「清水『草里』のクレープ包みがおすすです!!」

Q 肺がんとはどんな病気?

A 気管支や肺胞の細胞が何らかの原因でがん化したものを肺がんと呼びます。主な種類に、腺がん、扁平上皮がん、大細胞がん、小細胞がんがあります(図1)。がんは肺にとどまっている状態では症状がないのですが、そのままにしておくと周りの組織を壊しながら増殖、血液やリンパ液の流れによって他の部位に転移することも。男性・喫煙者に多いイメージがありますが、喫煙歴に関係なく発症する肺がんもあり、特に肺がんの60%を占める腺がんは女性にも多く、注意が必要です。

Q 予防する方法はある?

A 残念ながら有効な予防法はないのですが、まずはタバコを吸わないこと、喫煙している人はすぐにでも禁煙してください。肺がんは自覚症状がないため、不調に気づいて検査して初めてがんが判明した時にはすでに進行していることが多いのですが、早い段階で発見できれば手術によって生存率を上げることができます。早期発見のため、40歳以上の方は1年に1回必ず検診を受けましょう。

Q 手術後の生活が心配。今まで通りの生活はできますか。

A 小さいながらも傷はあるため手術後1ヶ月ほどは注意が必要ですが、基本的には普段通りの生活を送ることが可能。これまで通り仕事や家事もできますし、食事やスポーツ、飛行機を使った旅行も楽しめます。ただし、禁煙は継続してください。



呼吸機能を損なうことなく がんを切除できる縮小手術

比較的早期の肺がんに対して、選択肢のひとつとなるのが手術治療。ここ数年で肺がんに対する手術は大きく変化していて、代表的なものに縮小手術と低侵襲手術が挙げられます。

縮小手術とは、肺の切除範囲を従来よりも小さくした手術のこと。

人間の肺は、右肺は3つ、左肺は2つの大きな部屋（肺葉）に分かれていて、以前はこの大きな部屋を丸ごと摘出する肺葉切除が標準手術とされてきました。しかし、国内で行われた大規模臨床試験の結果として、3センチ以下の肺がんに対しては大きな部屋の中のいくつかの小部屋だけを切除する区域切除が2年前より標準手術に加わっています（図2）。

区域切除は肺葉切除と比べて手術はやや複雑になりますが、肺がんの治る確率を落とすことなく呼吸機能を温存できるという利点があります。区域切除が行えるかどうかは、がんの大きさや位置、性質により異なりますが、術後の生活をよりよいものにするため、当院では適応がある場合は積極的に区域切除を提案しています。

手術支援ロボットの登場で 負担の少ない手術が可能に

一方低侵襲手術は、手術の創（傷あと）ひとつひとつを小さくして身体への負担を軽減した手術のこと。特に近年手術の低侵襲化を後押ししているのが、全国で普及しつつある手術支援ロボットです。

手術支援ロボットは当院にも昨年導入され、すでに婦人科や泌尿器科領域でロボット支援下手術を行なっており、呼吸器外科でも導入の準備を進めています。

呼吸器外科でロボット支援手術の対象となる疾患は、肺がんを含む肺腫瘍と胸腺腫などの縦隔腫瘍です。従来行われてきた胸腔鏡補助下手術や胸腔鏡下手術も、身体への負担は比較的少ないものですが、これらに加えて治療の選択肢が増えることは患者さんにとっても医療者側にとってもメリットが大きいと考えます。

当院ではこのように、より安全で低侵襲な手術を提供できるよう努力しています。私個人が目指すのは、患者さんにとってわかりやすい医療です。難しい専門用語はなるべくかみ砕いて、内容はぼやけないようにはっきりと、理解しやすい病状説明を心掛けています。胸部の異常を指摘されたときは、ぜひ当院にご相談ください。

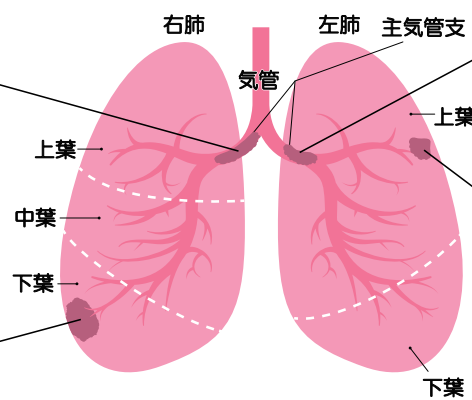
図1 肺がんの種類と特徴

扁平上皮がん

- ・気管支壁にできることが多い
- ・喫煙者、男性に多い

大細胞がん

- ・発症頻度は比較的まれ
- ・がん細胞が他のがんに比べて大きい
- ・男性に多い
- ・進行・転移は速い



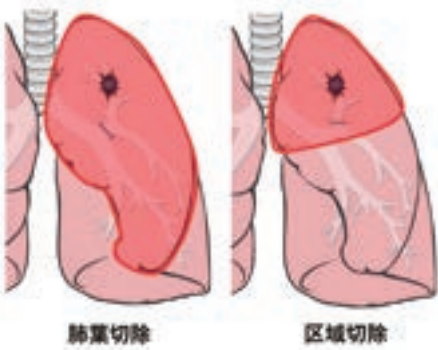
小細胞がん

- ・悪性度の高いがん。リンパ節、脳、肝臓、副腎、骨などに転移しやすい
- ・喫煙者、男性に多い
- ・進行・転移は速い

腺がん

- ・日本人に最も多い肺がん。男女比は約2:1。女性や非喫煙者にも多くみられる
- ・早期では症状が出にくい

図2 肺葉切除と区域切除



INFORMATION

MRI増設・更新に伴う 工事のお知らせ

現在1号館地階においてMRI機器の増設・入れ替えに伴う工事を行っております。工事は7月を目処に完了、8月より新しいMRIが稼働予定です。皆さまには騒音・振動等でご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



表紙を飾った静岡赤十字病院スタッフ

(表紙左より)

- 言語聴覚士 柴田紋佳さん
- 理学療法士 小林ゆき子さん
- 作業療法士 中村水音さん

病気やケガで心身に不調をきたした患者さんの機能回復をサポートしているリハビリテーション科より、各専門分野で活躍する3人の職員が登場。笑いとおしゃべりが絶えない楽しい撮影、最後は撮影を見守ってくれた皆さんと記念の1枚をパチリ。明るい空気にチームワークのよさが伝わってきました!





整形外科に新外来開設と「移動式CTシステム&脊椎ナビゲーション連動システム」導入のお知らせ

当院整形外科では2025年1月より脊椎側弯症に特化した新しい外来を開設、思春期に多い特異性側弯症の診断と治療を行っています。

脊椎側弯症とは、さまざまな原因から背骨がねじれるように弯曲する疾患のこと。特に思春期特異性側弯症は小学校高学年から中学生の女子に多く見られ、この年代の女子の2~3%に発生する身近な病気です。多くは軽症のため、定期的なレントゲン撮影で経過をみていきますが、中には進行を抑制する装具の装着や、手術加療が必要な方もいます。

学校の検診で脊椎変形の疑いを指摘され不安を感じている患者さんが、適切なタイミングで専門医を受診し治療を受けられるよう開設されたのが、今回開設された新外来。学校生活に比較的影響しにくい月曜午後に専用枠を設けていますので、ぜひご利用ください。

また当院では小児期や成人の脊柱変形手術を積極的に行っていますが、こうした手術では

正確に脊椎インプラントを設置する技術が必要です。そこで2025年より新たに、手術室内で使用できる可動式CTナビゲーション装置を導入しました。

これは高精度のCT撮影装置を手術室で稼働、装置がとらえた画像データをリアルタイムで治療に使用できるというもの。移動式CTシステムと脊椎ナビゲーション連動システムの導入は国内では4施設目（2025年1月時点）となり、二つの装置が連動することで脊椎手術の安全性をいっそう高めることが期待されます。当院ではこれら装置の導入により、より低侵襲な手術を目指してまいります。



可動式CTナビゲーション装置
(写真提供:日本ストライカー株式会社)



整形外科部長 高橋洋平

- ・担当診療科:整形外科
 - ・担当医:整形外科部長 高橋洋平
 - ・診療時間:毎週月曜日 15:30~16:30
- ※紹介予約が必要です。ご希望の方はかかりつけ医の紹介状をご用意の上、当院地域医療連携課へご連絡下さい。

INFORMATION インフォメーション

当院に新たに着任した医師をご紹介します

新年度より当院に新たに44名の医師が着任いたしました。皆様に信頼される医療を目指し、病院一同一丸となって頑張ります。

◎…診療部長 ○…診療副部長

診療科	氏名	診療科	氏名
総合内科	下村 知輝	形成外科	大塚 静香
総合内科	植田 雅崇	脳神経外科	貴田 覚
総合内科	山村 響	心臓外科	○山中 憲
総合内科	榮本 昭人(5/1より)	産婦人科	近藤 友宏
血液内科	佐藤 佑樹	耳鼻咽喉科	山中 歩美
脳神経内科	井口 沙希	歯科・口腔外科	木村 茉莉
脳神経内科	岩崎 文美	泌尿器科	◎伊藤 正浩
脳神経内科	成田 遼	救急科	是永 真甫
脳神経内科	神田 茜	初期臨床研修医	池谷 真緒
脳神経内科	山崎 達郎	初期臨床研修医	伊藤 沢
脳神経内科	土田 彬博	初期臨床研修医	賈 思奇
呼吸器内科	深田 充輝	初期臨床研修医	柏木 悠花
呼吸器内科	宮本 幸太	初期臨床研修医	神尾 大樹
消化器内科	伊藤 誠人	初期臨床研修医	川瀬 友太郎
循環器内科	尾針 甲祐	初期臨床研修医	佐々木 健人
循環器内科	高橋 直之	初期臨床研修医	津久井 嶺
循環器内科	清水 翔太	初期臨床研修医	中野 剛志
小児科	浦上 智加	初期臨床研修医	本間 梨紗子
整形外科	河合 桃太郎	初期臨床研修医	宮本 大輝
整形外科	半田 雪乃	初期臨床研修医	望月 直
整形外科	小島 史也	初期臨床研修医	佐々木 美奈
整形外科	高瀬 乾	初期臨床研修医	飯塚 直大

暮らしに役立つ情報をおとどけ

しずおかクロス NAVI

看護部

インスタグラムにて情報発信中!

「インスタグラム」とは、写真や動画投稿を通じてコミュニケーションを楽しむソーシャルネットワーキングサービス(SNS)のこと。当院看護部では2025年1月より公式アカウントを開設、院内業務に奮闘する職員の日常、また研修や行事の様子について情報発信していきます(アカウント名:shizuokarecross)。ぜひご覧ください。



新規投稿は
毎週水曜に
更新中

